



# Photography

輝き・やすらぎ・賑わい



(写真提供 土佐山田町岩次 山崎誠喜氏)

## 編集後記

土佐山田町の女性の方から数枚の写真を添えた手紙がとどいた。

内容は「議会だより」

「広報香美」に興味を持って読んでいるが、これらの広報に参加できないかというものであった。同封された写真の中に、いかだで川遊びをする兄弟がいた。岩次の山崎誠喜さんのお孫さんで、いかだは物部町の所有林を間伐した材で作った「りょうた丸」。お爺さんの想いの「川はたいせつにしましょう」と書かれた帆を上げないと出航できない。

私の子どもの頃は、夏は川で魚を取ったり、溯では飛び込んだりして一日中遊んだ。冬は山に基地になる小屋を作った記憶がある。今の子どもたちは、自然の中で遊ぶ機会が少なくなっている。

教育現場では、学力の問題が取り上げられているが、それだけでいいのだろうか。

より上がる風を、より飛ぶ水鉄砲をどうしたら作れるのかなど、遊びの中での体験が大切ではと考える。山崎さんもきっとそういう想いで、このいかだを作ったのだろう。

「議会だより」は、今後も市民参加型の広報誌づくりを目指します。ご意見等ございましたら議会事務局までご連絡ください。(K)